

術タル今日東京新潟ヲ連絡スベキ最短距離ノ本線方此三國峠ニヨリ連絡
出來得ザル事ハ交通上ヨリ將又軍事上ヨリ頗ル遺憾ニシテ表裏日本ノ連
絡ヲ一日モ速ニ完備スベキモノト信ズ

加之本線ハ苗場山一帯ノ本邦三大國有林ヲ貫通シ此開鑿ニヨリ資源開拓
國富増進ヲ期スベク更ニ三國峠一帯ノ勝景ハ天下ノ觀光地タリ希バ本國
道ノ重要性ニ鑑ミ速ニ開鑿セラレコトヲ

右府縣制第四十四條ニ依リ意見書及提出候也

昭和十三年十二月二十日

新潟縣會議長 田 下 政 治

農産物加工講習所設置ニ關スル意見書

我が新潟縣ハ由來全國有數ノ農業縣ニシテ特ニ最近時代ノ嚮向ニ鑑ミ多
角の經營方法ヲ採用スル農家ノ數著シク増進セルヲ以テ主要物タル米穀
以外雜穀、蔬菜、果實、養蠶、養鶏、養畜、竹、其ノ他ノ各用植物ヨリ
藥草ニ至ル迄栽培、育成、採收セラル、農産物ノ全量ハ極メテ豊富ナル
ニ拘ハラズ加工ノ術完全ニ發達セザル爲メ十分ノ價值ヲ發揮スル能ハズ
就中蔬菜ノ如キハ毎年ノ積雪冷害ニヨリ産出ノ時期後レ移出ノ機會ヲ失
ヒ僅ニ堆積シテ附近一部ノ需要ニ應ズルニ過ギザルモノアリ依然トシテ
原始産業ノ状態ヲ續ケ農村ノ損失極メテ甚大ナリ若シ之等ニ加工シ乾燥
法、罐詰法、雜穀ニアリテハ味噌醬油ソノ類、養畜ニアリテハ乳ノ
方法ト肉或ハ骨ノ處理法、竹細工及ビ各用植物ニアリテハ整理法ト工業
の利用法等研究普及セシムルニアラバ廢品モ亦光輝ヲ發シ自ラ海外輸出
ノ振興トナリ缺後農村ノ充實強化ニ資シ利益恐ラク現在ニ數倍ナルヲ得
可シ缺後産業強化ノ基本トシテ本縣ノ如キハ逸早ク是ニ着眼セザルヲ得
ザルモノナルニ拘ラス縣トシテ今日ニ至ルマデ未ダ之ニ對シ何等施設ヲ

ヘズ而カモ機械科應用化學科ノ如キ全ク新設セントスレバ優ニソノ費用
五十萬圓ヲ下ラザルベシ、既存ノ高田商工學校ノ施設ヲ能フ限リ之レヲ
利用スルヲ上策トシ豊富ナル物の人的資源ト陸海兩面ニ涉ル地ノ利ヲ併
用スル上越中心地ニ科學工業教育施設ノ絕對ニ欠カベカラザルコトノ認
識ヲ切望シテ已マズ依テ縣當局ハ速ヤカニ縣立高田商工學校ノ工科ヲ擴
充シテ機械科並ニ應用化學科ヲ増設セラレコトヲ望ム

右府縣制第四十四條ニ依リ意見書及提出候也

昭和十三年十二月二十日

新潟縣會議長 田 下 政 治

新潟縣知事 中村安次郎殿

信越本線新潟長岡間複線實施ニ關スル意見書

滿洲事變以來國策ニ對應シ出現シタル日滿最短ルートノ門戶新潟港ハ近
時愈々重要性ヲ加重シ吞吐スル物資旅客ノ數量ハ急「テンボ」ニ膨脹ノ一
途ヲ辿リツ、アルガ其ノ九十パーセント程度ハ關東、東北ノ大「ヒンタ
ーランド」ヘ鐵道輸送サル、モノニ有之就中信越線新津驛ハ信越、上越
管越、羽越、諸線ノ樞軸ニ位置シ眞ニ新潟港ヲ中心トスル大陸ルートノ
心臟部ニシテ同驛ヨリ新潟及長岡ニ向ケ通過スル貨車數ハ昭和十三年上
半期一日平均一、二九七噸、是レヲ昭和八年度ノ一日平均ニ比較シ五割
七分増ト驚異的ニ躍進シ一方旅客統計ハ昭和十二年度通過人員二百五十
萬七千六百六十五名昭和八年度ニ比較シ二割八分五厘ノ増加ヲ見タリ、
以上ノ如ク客貨流動量ハ甚シク増加シ是ガ爲メ新潟長岡間ノ線路容量ハ
遂ニ飽和點ニ達シ、最早半本ノ列車「ダイヤ」スラ編入ノ餘地ナク現ニ沿
線ハ滯貨ノ山ヲ築ク現況ニアリ當局ハ未曾有ト稱サレル同區間、中心ノ
輸送難ヲ打開スル爲メ白新線ノ建設並ニ越後線規格ノ向上、新津、長岡及
新潟新津間ノ複線ヲ實施セントスル意圖ヲ有シ今回線龜田荻川間縣道

見ザルハ本縣ノ最モ遺憾トスル所ナルガ故ニ縣ハ急遽案ヲ具シ適地ヲ察
シ中央農産物加工講習所ヲ創設シ全縣各地ニ於ケル部分的計劃ヲ統一指
導スルト共ニ當時講習ヲ行ヒ農産國トシテノ眞面目ヲ顯現シテ以テ國策
ニ順應セシム可シ從テ本事業ニ對シテハ國庫補助モ當然望ミ得可キモノ
ナリト雖事一日ヲ速カニスレバ一日ノ利用アリ希クバ其ノ有無ニ拘ラズ
獨自ノ立場ヲ以テ邁進セラレコトヲ望ム

右府縣制第四十四條ニ依リ意見書及提出候也

昭和十三年十二月二十日

新潟縣會議長 田 下 政 治

新潟縣知事 中村安次郎殿

高田商工學校擴充ニ關スル意見書

我國運ノ發展ニ隨ヒ高田市ヲ中心トスル頸城三郡ニ於ケル近來ノ工業躍
進ノ狀勢ハ特ニ顯著ナルモノアルハ當局ノ既ニ認メラル、ガ如ク理研重
工業、青海電化、日本曹達、日本セルロイド、日本ステンレス、信越窒
素中央電氣及其傍系タル各會社事業ハ固ヨリ地方一般ノ製造工業ノ生産
高ニ見ルモ年額數十萬圓ノ増額ヲ見ルニ至レルハ本縣内ニ於ケル一偉觀
ヲ呈スル所タリ

先キニ工業學校増設ニ就キ熱心ニ唱導サレタル文部省ノ勸奨ヲ俟タズ
トモ、地方斯業界ノ是レニ對スル要望熾烈ニシテ、今此ノ聲ニ應ジテ積
フル所ナクンバ暫クテ地方工業ノ伸張ヲ抑制スル姿態ニ立至ル
ナキヲ保セサルベシト思惟セラル

本縣ハ在來鐵道甲種工業教育方長岡市一ヶ所ニ限ラレ居リシモ幸ニ今回
新潟市及柏崎町ニ新設シ三條市昇格ヲ見ルニ決シタルヲ以テ稍々其ノ態
勢ヲ整ヘタルガ如ク思惟セラル、モ本縣ノ如キ南北他ノ三縣ニモ比スベ
キ大縣ニ於テハ上越地方ニ一ツノ甲種工業教育施設ナキハ定ニ遺憾ニ堪

篤ト御配慮アラムコトヲ

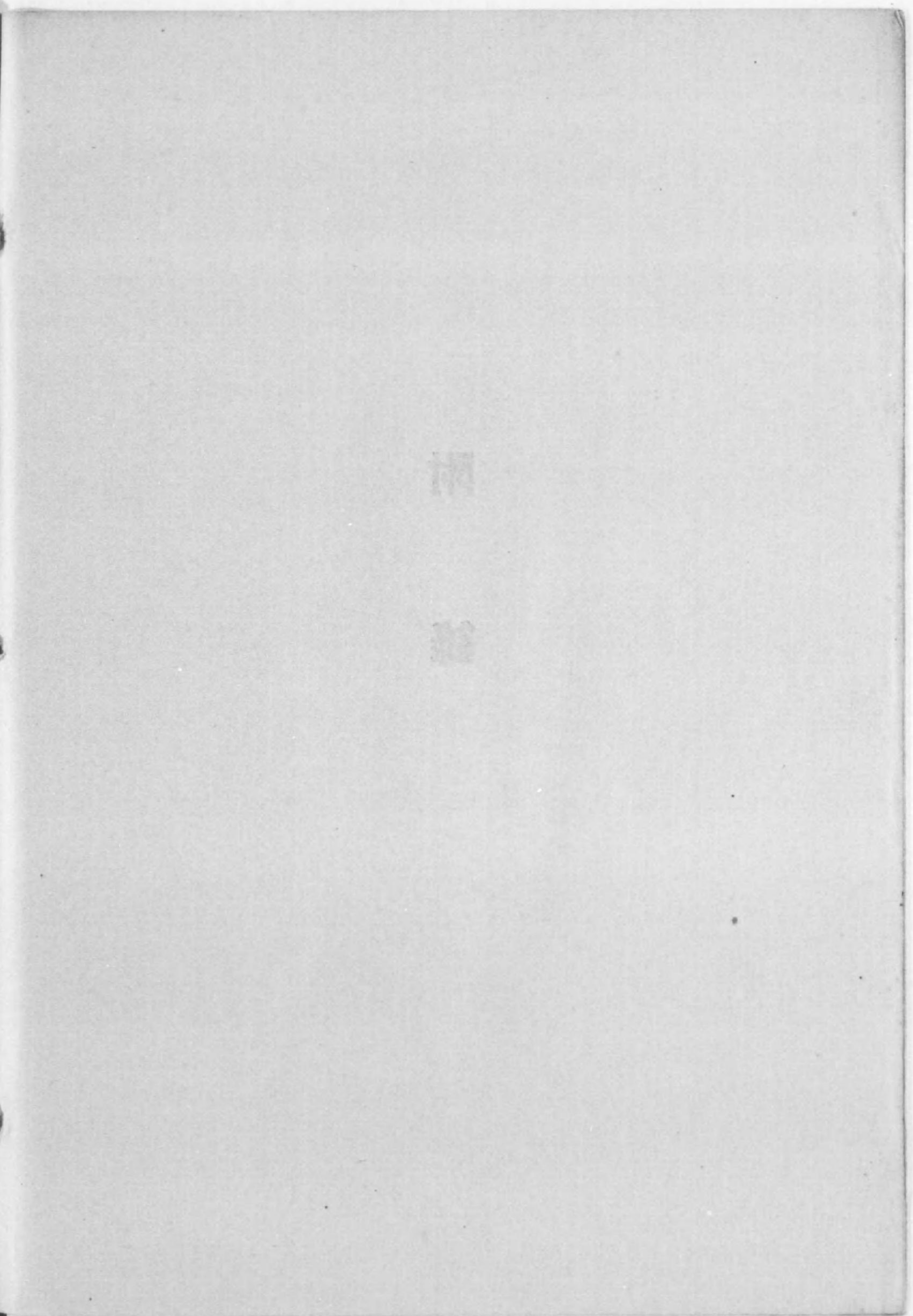
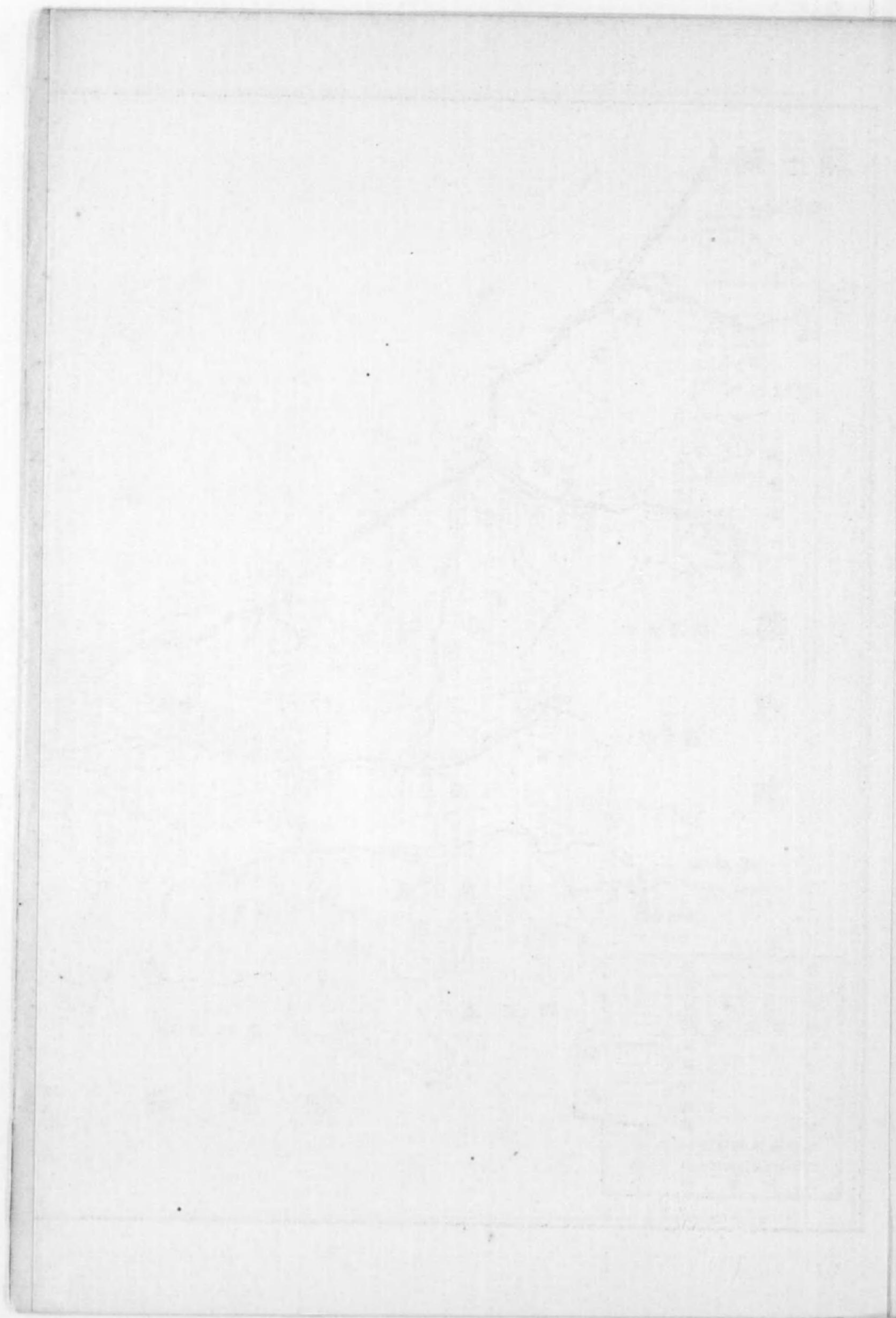
右府縣制第四十四條ニ依リ意見書及提出候也

昭和十三年十二月二十日

新潟縣會議長 田 下 政 治

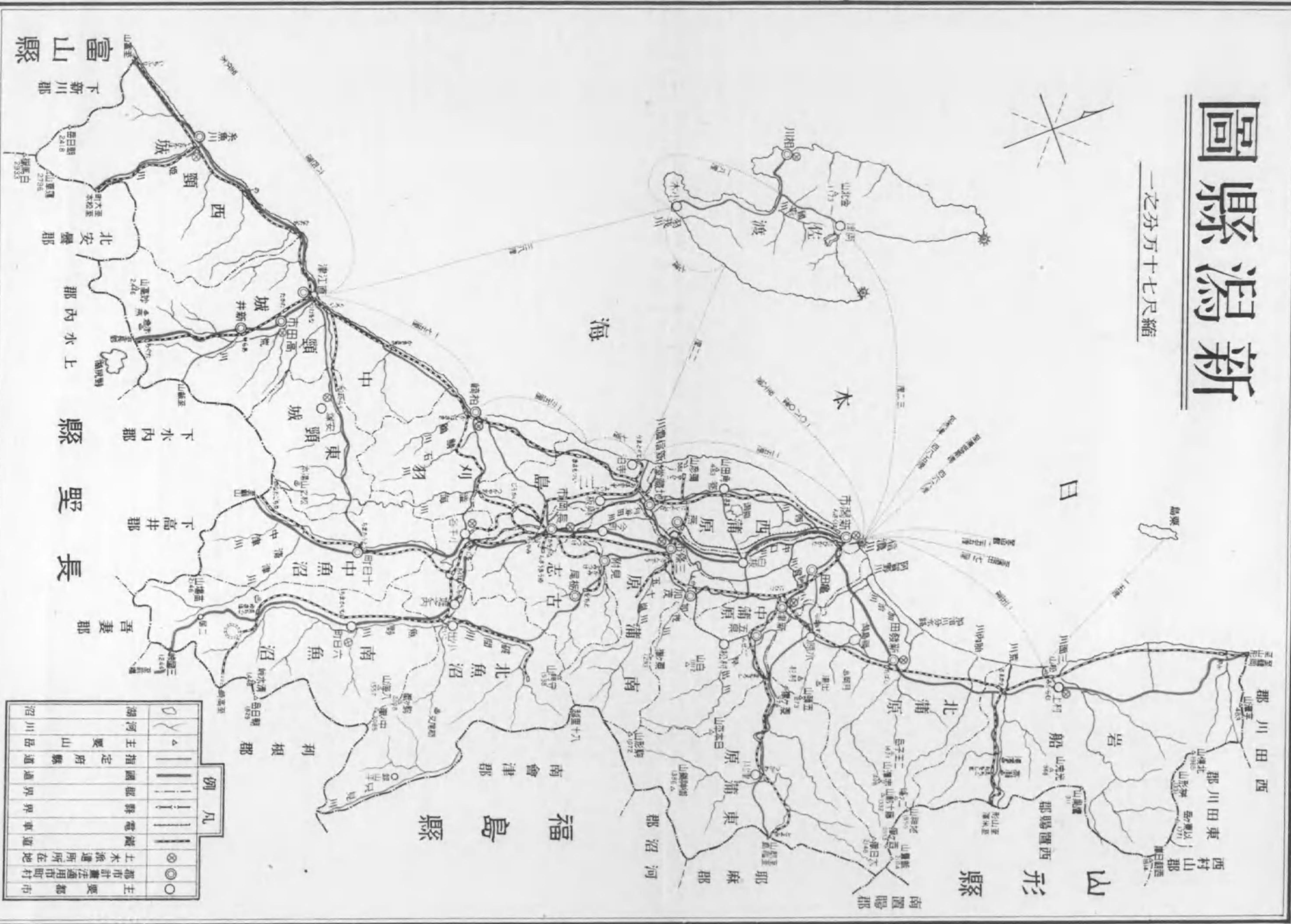
鐵道大臣 中島知久平殿

附
錄



新潟縣圖

縮尺七十分之一



凡例

○	主要都市
◎	市計畫法適用市町村
⊙	土木鉄道所在地
	電氣鐵道
	縣界
	國道
	指定府縣道
△	主要山岳
○	湖
○	沼
○	川

中央電氣株式會社

高田市大町
電話 二二三八二〇番

新潟電力株式會社

新潟市上大川前通六番町
電話代表三・二八〇番

村上水電株式會社

新潟縣村上町
電話 一〇五番

北越水力電氣株式會社

長岡市本町三丁目
電話 四二三八九五番

新潟合同自動車株式會社

電話代表三・四一〇番

新潟臨港株式會社

新潟市山下ノ下
電話(三・七五)一六〇番

日滿連絡船



新潟ヨリ清津羅津經由・最モ早ク最モ經濟ナル航路
 新造豪華船 17節 總噸 五〇〇噸 定員 七五一名
 純客船 滿月山丸 16節 總噸 三・二〇〇噸 定員 五〇六名
 純客船 滿洲丸 16節 總噸 三・五〇〇噸 定員 四三〇名
 優秀客船 さいべりや丸 16節 總噸 三・五〇〇噸 定員 四三〇名
 俊秀客船 さいべりや丸 16節 總噸 三・五〇〇噸 定員 四三〇名
 ○○冬季毎月六回三十八ノ日午後二時新潟出帆
 ○○省・滿鐵・鮮鐵ト旅客及貨物運送取扱ヲ致シマス
 ○○案内書送呈
 東京市麹町區内幸町二
 新潟市中央埠頭
 北日本汽船株式會社
 北日本汽船新潟在勤員

東京市赤坂區葵町二番地
滿鐵ビルディング五階

日滿倉庫株式會社

電話赤坂(48)代表二一四一(四)

土木建築業

加賀田組

加賀田勘一郎
新潟市沼垂馬越
(中浦原郡石山村大字馬越)
電話二四〇六番

土木建築業

布施幸藏

新潟市上大川前通五番町
電話一二九一番

土木建築業

波多野組

波多野庄治
北浦原郡安田村
電話(安田)十一番

土木建築業

植木組

植木豊太
自宅刈羽郡中鯖石村
出張所 柏崎
電話三七番

土木建築業

富樫組

本店 岩船郡八幡村大字大島
出張所 村上本町
電話 三一七番

土木建築業

飯塚組

支店 高田市西一丁目
電話 四一七番
本店 元柳町三丁目
電話 三六番
支店 元柳町三丁目
電話 三六番

土木建築業

小柳組

南浦原郡加茂町
電話 四十五番

高島組

長岡市旭町一丁目
電話 九七五番
東京市四谷區右京町二丁目
電話 四谷四三七六番

諸官省指名

土木建築請負業

株式會社 白澤組

代表者 白澤 治 太右衛門
本社 新潟縣糸魚川町 電話 二六二番
出張所 新潟縣北魚沼郡小出町 電話 一六八番
同 縣中蒲原郡白根町 電話 一六三番
名古屋市中川區八熊町五反畑二、三五
電話 南四、七〇六番

土木建築業

水倉組

水倉 水倉 新庄 作六
西蒲原郡卷町
電話 一〇九番

土木建築業

中元組

三島郡寺泊町
電話 四十八番

土木建築業

宮川組

西蒲原郡小吉村
電話 月湯(營業所)五十八番
自宅 一三番

土木建築業

羽賀幸藏

三條市西新保
電話二六六番

土木建築業

吉原組

吉原六藏
長岡市草生津町
電話七九八番

土木建築業

佐伯組
佐伯利作

東浦原郡兩鹿瀬村
大字向鹿瀬
電話津川二三番

土木建築業

佐藤組

佐藤朝次郎
長岡市荒屋敷
電話一、三九七番

土木建築業

島津組
島津太郎太

本店 新潟縣新發田町
電話四〇二番
支店 新潟市秋川岸
電話一八八四番

土木建築業

中野丹藏

佐渡郡小木町
電話(小木)三〇番

土木建築業

高橋幸作

中魚沼郡田澤村
電話(田澤)二四番

株式會社
清水組

本店 東京市京橋區寶町二ノ一
電代表 四一八一番
" 五一八一番
出張所 新潟市上大川前通八番町
電話 二三九番

東京市芝區田村町一丁目一番地二

東京電燈株式會社

電話銀座(五七) (電) 二、一四五—九
(11) 五、五三一—四〇番
五、五四一—七七番

東京市京橋區寶町一丁目七番地
味の素ビルディング六階

東信電氣株式會社

電話京橋(56) 自一一、一一三番
自一一、一一三番
至六六、一一七番
至六六、一一七番

東洋鐵網製造株式會社

本社
東京市品川區東大崎二丁目二九四番地
電話 大崎(電) 九七三・九七四・九七五番
振替口座東京三三三・七七・一七番
大阪出張所
大阪市北區網笠町九(大江ビル内)
電話北區(電) 三六二・三六三・三六四番
振替口座大阪六八〇・三一五番
九州出張所
熊本米屋町二丁目三二番地
電話熊本(電) 一六一〇番

東京市芝區田村町二丁目

KTK 川崎鐵網工場

電話三田(一) 一四五・一四六番
支店 大 阪・京 城
出張所 札幌・福岡・奉天

昭和十四年五月十五日印刷
昭和十四年六月十日發行

(金五圓也)

新潟市白山浦一丁目
發行人 渡邊 鶴藏
新潟市西堀前通七番町
印刷人 佐藤 新次郎
新潟市西堀前通七番町
印刷所 新潟新聞印刷部

發行所 新潟新聞社

145
805

終